

1 - 1 北海道とその周辺の最近の地震活動(1987年12月～1988年5月)

Recent Seismic Activity in and around Hokkaido (December,1987 - May, 1988)

北海道大学 理学部

Faculty of Science, Hokkaido University

この期間の浅発地震の震央分布を第1図に示す。この期間の地震活動は活発であった。第2図(A)に震央を示す浅発地震の積算回数曲線を同(B)に示す。1987年12月末から1988年3月の期間の活動度が著しく高かったのは明らかである。この活動度の高まりは、1ヵ所の地震群によるものではなく、北海道の内陸に広く散発した地震によるものである。とくに、3月には各所で局発地震が発生している(第1図(C))。この地震活動が高くなっていった時期に、雌阿寒岳で小噴火を含む火山活動¹⁾が続いていた。また、札幌周辺の浅発地震活動も1985年1月23日のM3.5の地震²⁾を契機として活発な状態力が続いている(第3図)。

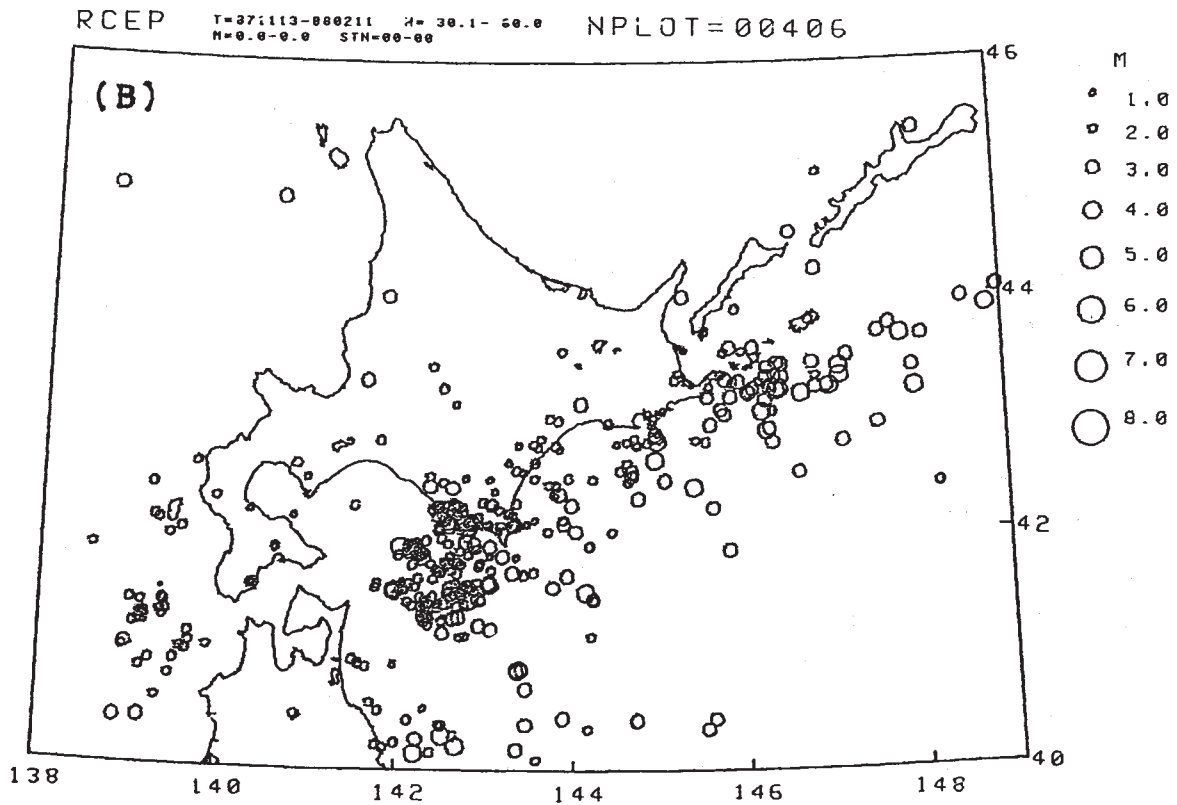
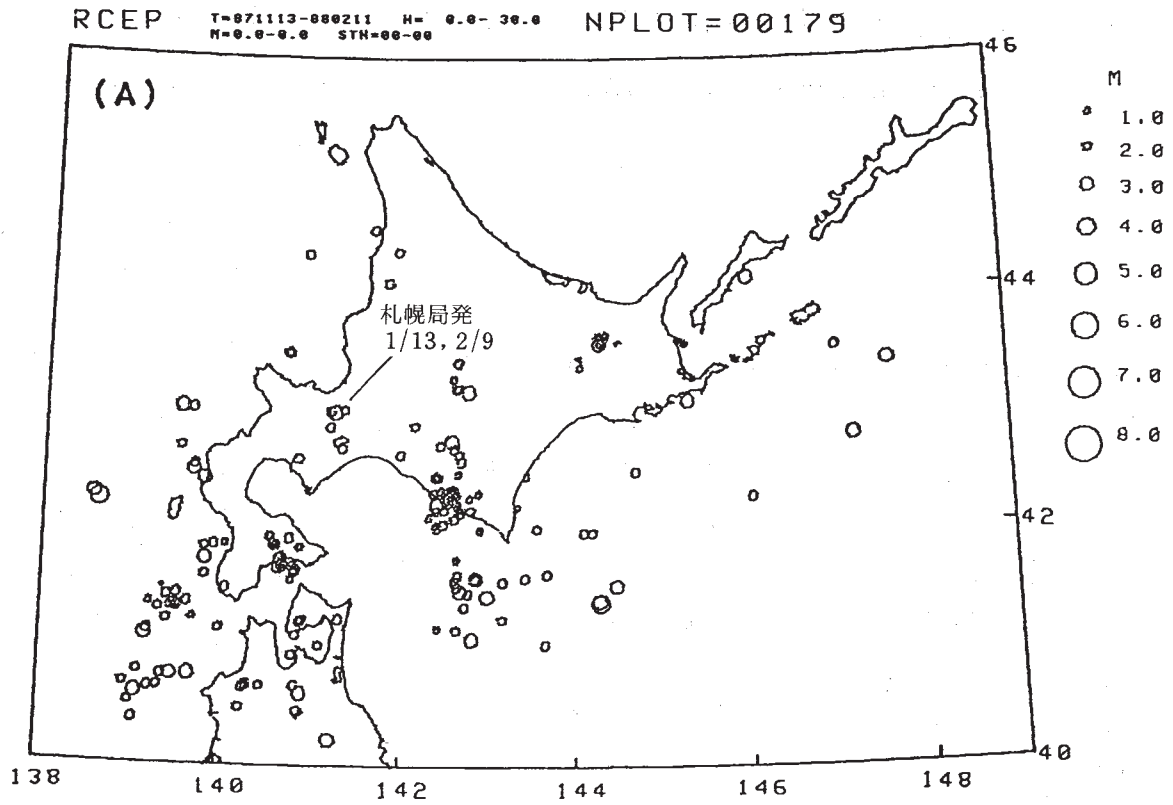
1988年5月7日10時から根室半島東方沖で群発地震(最大地震M5.3)が発生したのに続いて1時間後には十勝沿岸でM6.4(最大震度Ⅳ)があった。さらに2日後の9日08時には日高山脈でM5.3(震度Ⅲ)の地震があり、同日17時には登別付近でM3.4(震度Ⅱ)の地震が続いた(第4図)。短かい時間内に東から西へ活動が移動したといえよう。同じような活動の移動は1984年3月(西から東へ)³⁾、1984年12月18日(東から西へ)⁴⁾にもあった。

さきにもべた内陸での地震活動の活発化は、この移動を示した地震活動に先行する現象であった可能性がある。また、第2図(b)で1985年6月にみられる活動の活発化は、第5図に示すように太平洋沿岸の地震活動が北東方向へ移動し始めた頃に対応している。

以上の観測結果は広い領域での活動が微妙に影響し合っていることを示しており、広域的な地震活動監視が重要なゆえんである。

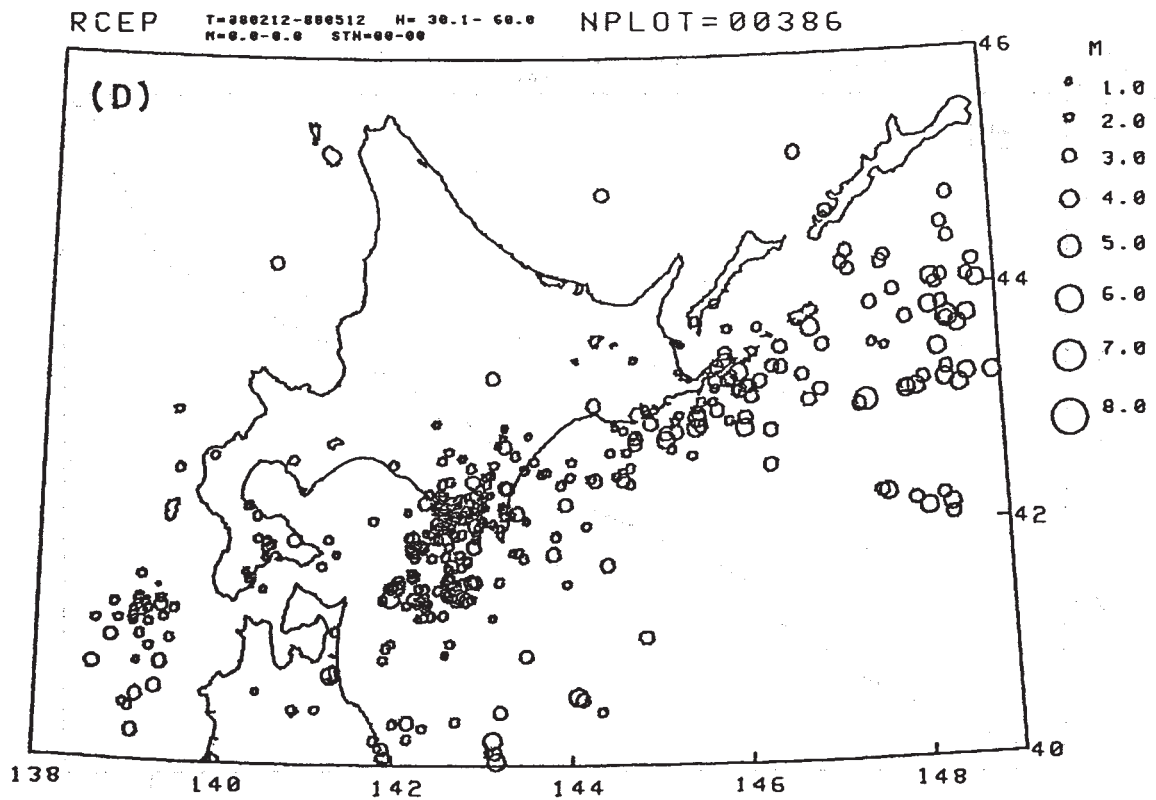
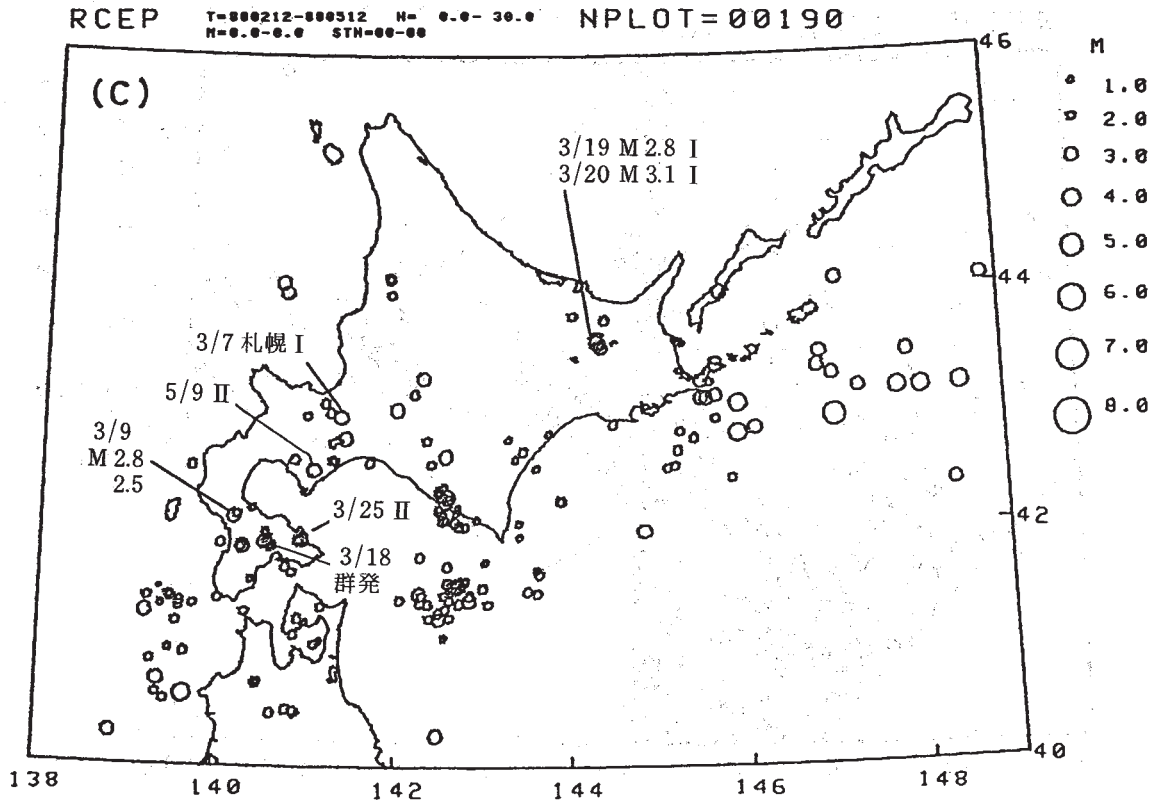
参 考 文 献

- 1) 笠原稔・ほか:雌阿寒岳1987～88年小噴火活動に伴う地震活動,地震学会予稿集,1(1988), 56.
- 2) 鈴木貞臣・本谷義信:1985年1月23日札幌直下地震(M3.5)の震源と震度調査,北大地球物理研究報告,46(1985), 85-91.
- 3) 北大理学部:北海道とその周辺の地震活動(1983年11月～1984年5月),連絡会報,32(1984), 1-4.
- 4) 北大理学部:北海道とその周辺の最近の地震活動(1984年11月～1985年5月),連絡会報,34(1985), 1-3.

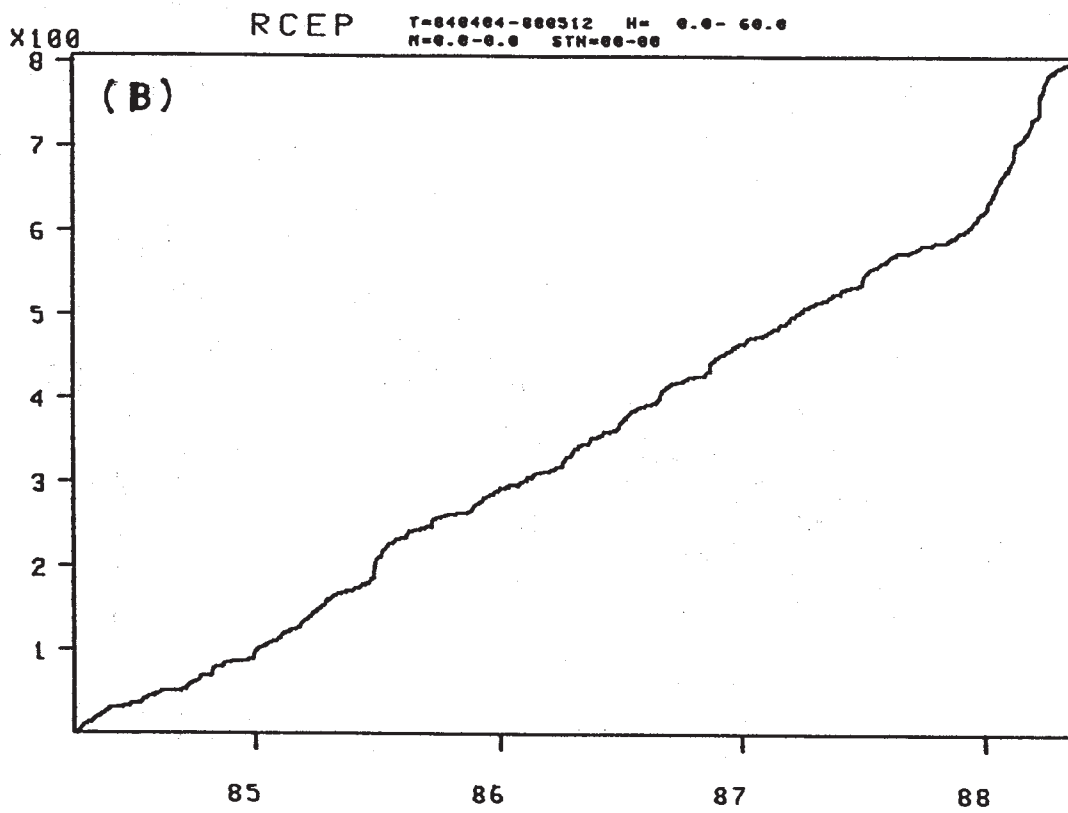
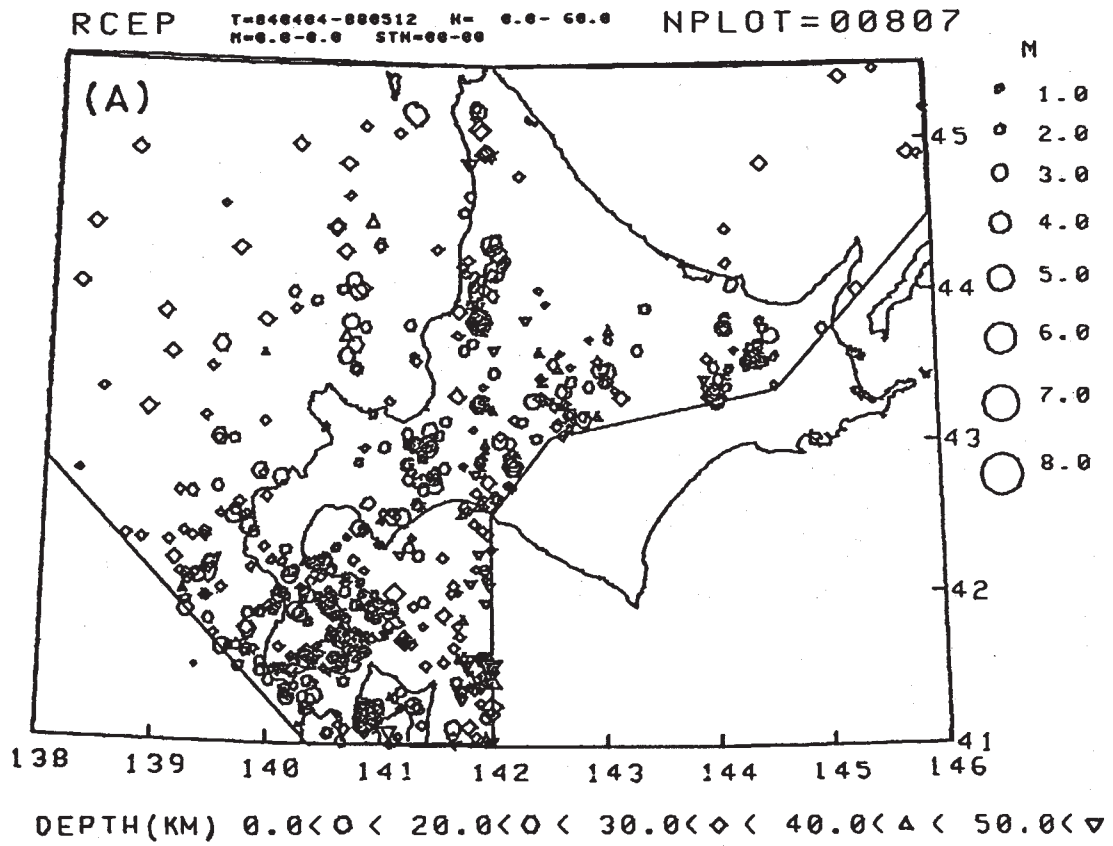


第1図 北海道とその周辺の浅発地震の震央分布

Fig. 1 Epicenter Distributions of shallow earthquakes in and around Hokkaido.

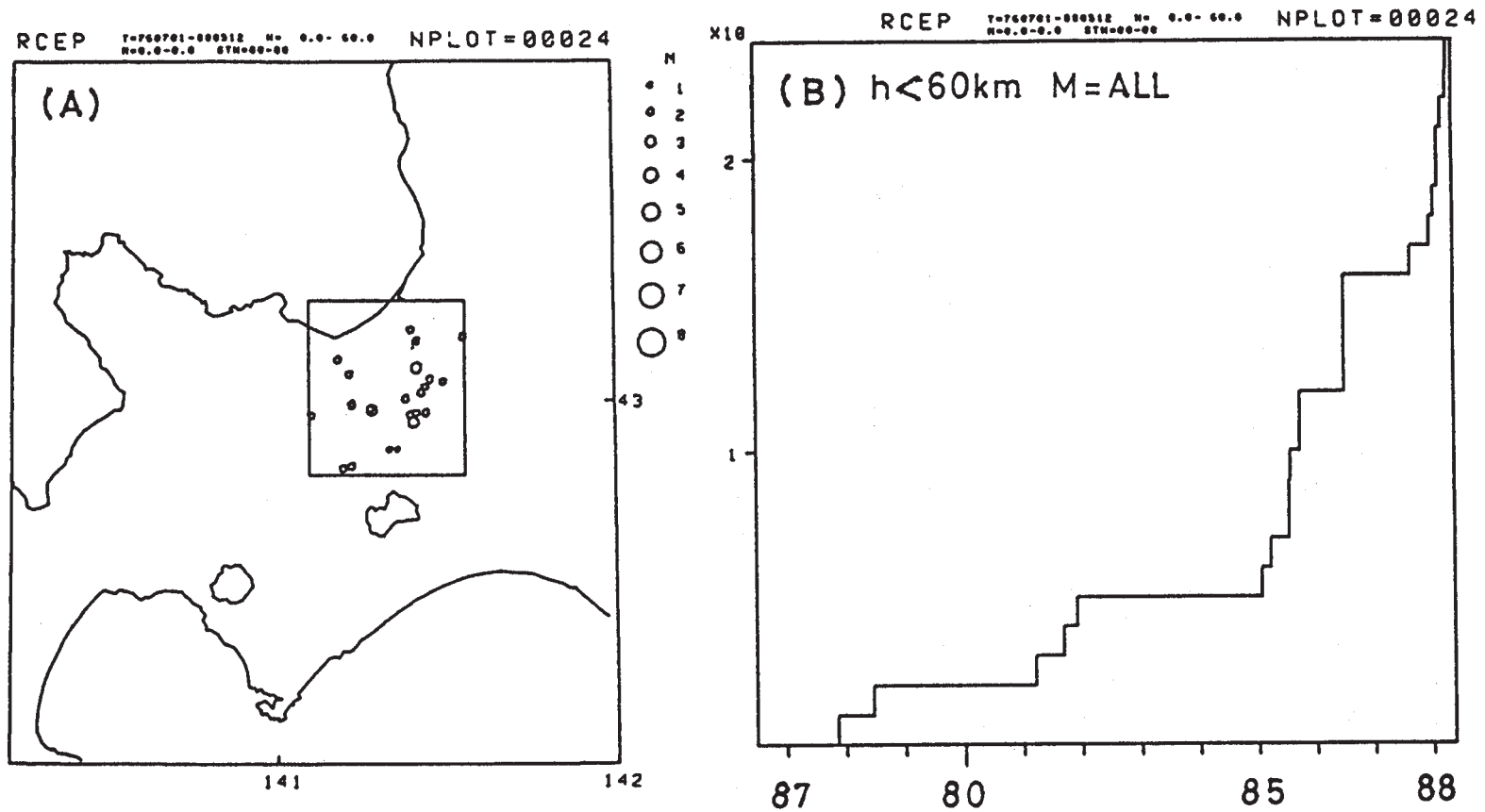


第1図 つづき
 Fig. 1 (Continued)



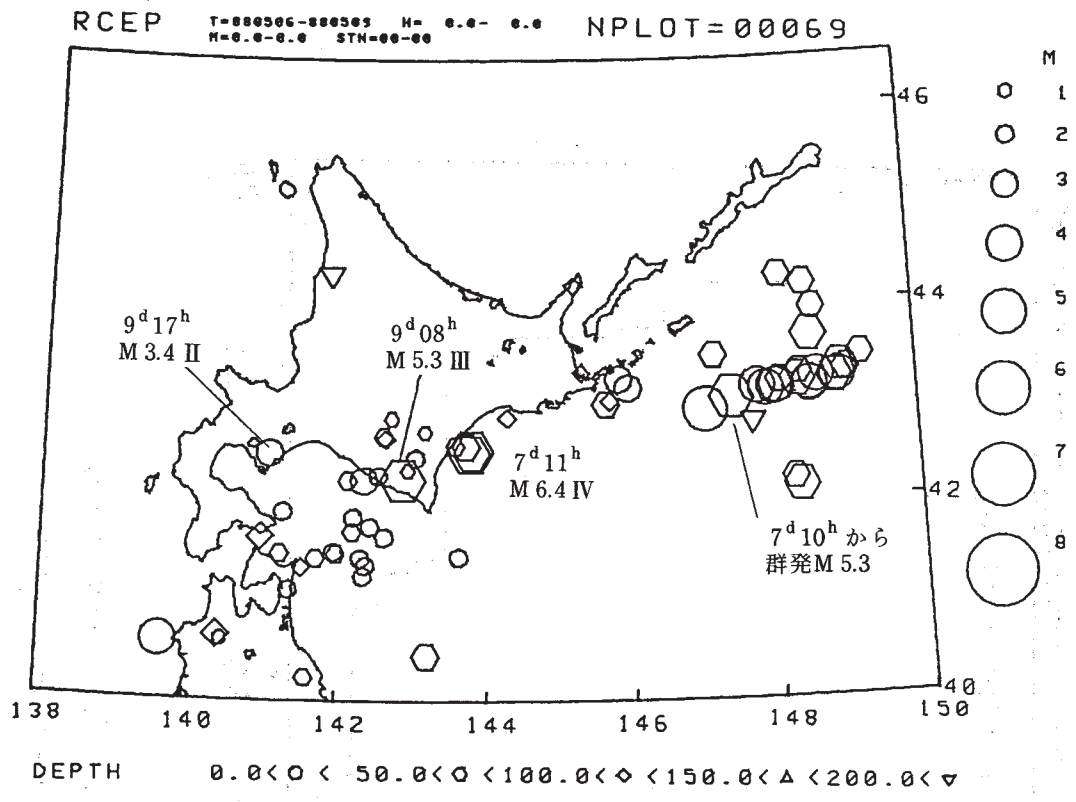
第2図 北海道内陸と日本海沿岸の浅発地震活動 (A) 央分布 (B) 積算地震回数曲線

Fig. 2 (A) Epicenter distribution of shallow earthquakes.
 (B) Cumulative number of the earthquakes.



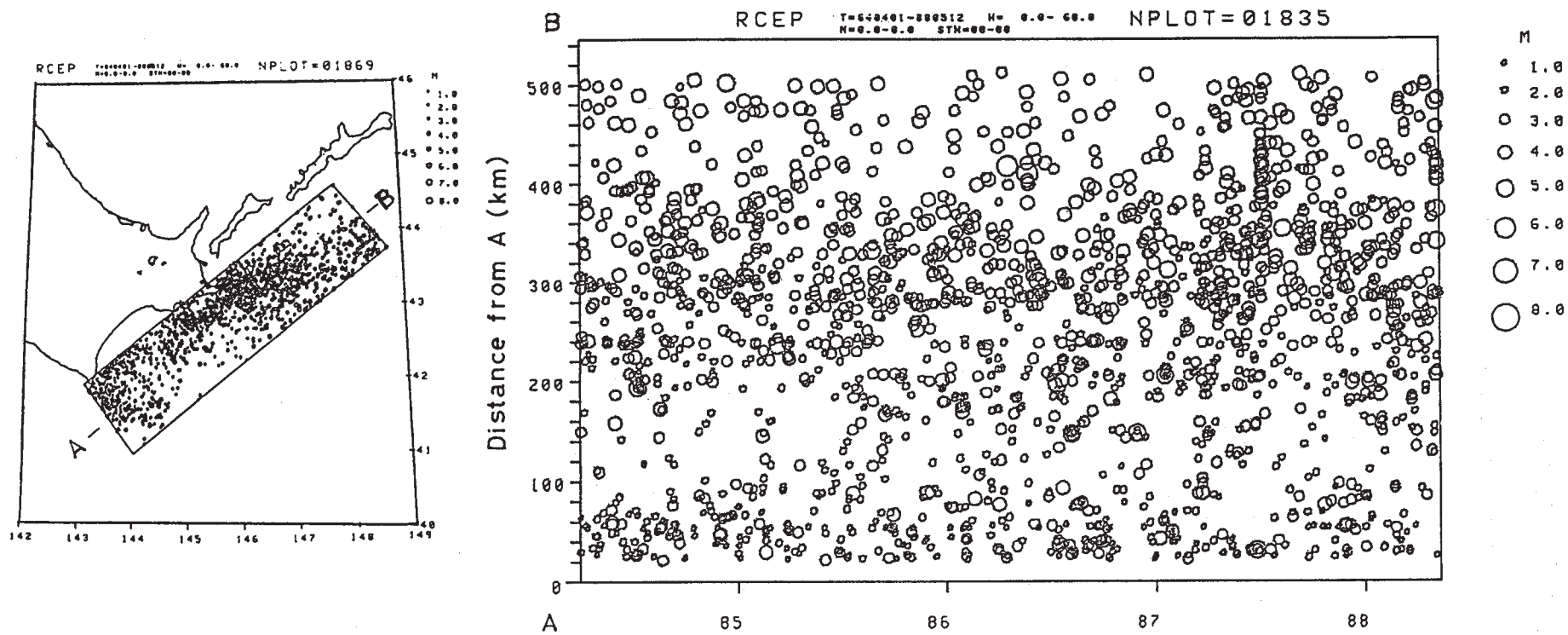
第3図 札幌周辺の浅発地震活動 (A) 震央分布 (B) 積算地震回数曲線

Fig.3 (A) Epicenter distribution of shallow earthquakes occurring near Sapporo.
 (B) Cumulative number of the earthquakes.



第4図 1988年5月6日-9日の3日間の震央分布

Fig. 4 Epicenter distribution of earthquakes for three days, from 6th through 9th, May, 1988.



第5図 北海道太平洋沿岸の地震活動（左）震央分布（右）時間－空間分布

Fig. 5 Time-space diagram of earthquakes (right) whose epicenters are shown left.